

大人たちの顔

広島県立鞆啓大^{たぬらひ}の授業で、学生計18人の3グループに問いかけたそうだ。「広島の問題」は何ですか。それに対する解決策を考えよう、と。

さて、どんな課題が挙がったのだろう。いろいろ考えられる。次世代産業の育成、農村の担い手不足、教育、医療、介護、子育て、防災、被爆体験の継承……。でも、3グループが選んだのは同じテーマだった。「人口流出」だ。

学生たちに聞いてみると「身近な問題だから」という答えが返ってきた。まさに、今後の人生をどこでどう過ごすのかを考える時期。どこを選ぶかという点で、関心が自然と重なり合うのだろう。

鞆啓大だけではない。広島県の人口の「転出超過」が3年連続で全国最多となっていることについて、高校や大学、若い社会人たちが

潮流

編集委員 平井敦子

が議論のテーマにする試みが相次いでいる。本紙の「イケてない？広島 人口流出のなぜ」というシリーズについても先日、廿日市高の生徒たちから逆インタビューを受けた。

ところで、鞆啓大の学生たちが人口流出の対策として設定した具体的な目標とは？

つい笑ってしまったものがある。「電車に乗っている、死んだような顔の会社員を全滅させる」。私も自分と重なるからなのか、胸に刺さった。

広島を働きたい街にするために「上司に新規事業を却下され、しょんぼりしている20代」を何とかしたいという。一人一人の心持ちに光を当て、よい状態「ウエルビーイング」を実現することこそが価値なのだという感覚が自然と備わっているのだろう。伸び伸びと語る姿がまぶしく見えた。

楽しそうな大人たちがいる街へ。広島の問題の一つに違いない。